

企画・制作／福井新聞社営業企画局

協力／ジンマー・バイオメット

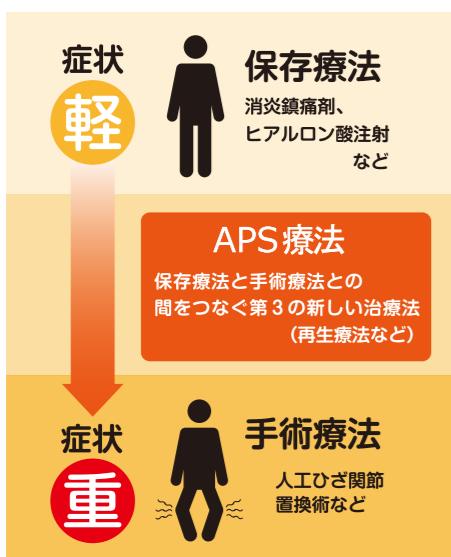
早期受診で 多様な選択肢

変形性ひざ関節症

変形性ひざ関節症の治療は一般的に「保存療法」と「手術療法」があります。症状が初期であれば飲み薬や張り薬を処方したり、関節の滑りをよくするヒアルロン酸注射を行うこともあります。保存療法で痛みが改善されず、軟骨や靱帯、半月板が損傷しており、関節の変形が大きい場合は手術療法を検討します。骨を切って角度を少し変え、O脚を矯正する「骨切り術」(高位脛骨

果か得られない場合は専門医を受診してください。受診されるとレントゲン撮影を行つたうえで問診を行い、鞄帯や半月板損傷の疑いがあればMRIにより精密な検査を行います。

変形性ひざ関節症の治療



の新しい治療法であります。その存在をより
人に知つていただき、
こつとして検討してもら
りたいです。早期
に受診されると治療
の選択肢が広がります。
患者さんの体への
負担が少ない治療
法を選べますし、社
会復帰できるのも早
いです。今、ひざの痛
みで悩んでおられる
人は早期に専門医に
ご相談されることを
願っています。

関節の痛み・変形・リウマチに 悩んでいる全ての皆さんへ

人工関節
ドットコム

電話無料相談
※通話料は通信者負担、相談料は無料です

電話無料相談TEL.0570-783855 ナヤミハココへ お気軽にお電話ください!
※通話料は通信者負担、相談料は無料です 平日 10:00~17:00

関節ライフ

検索 



中高年になつてから「ひざが痛い：階段の上り下りや正座もしづらくなつてきた」という悩みを抱えている人は少なくありません。その原因の一つである「変形性ひざ関節症」は、潜在患者数が約3000万人もいふと言われる国民病です。自己流の手当てで痛みを我慢している人も多いですが、早期に受診して正確な診断を受けると治療の選択肢は多く、痛みに支配される生活から解放されます。近年は人工関節手術が大きく進歩していますし、患者さん自身の血液による新たな治療法も注目されています。そこで、関節治療のスペシャリストである大森整形外科リウマチ科院長の大森弘則先生に、病態や様々な治療法、早期受診の大切さについて語っていただきました。

大森整形外科
リウマチ科
院長
大森 弘則先生

骨切り術)もありますが、痛みや腫れを取り除き、手術後翌日より早期に歩けるのが人工関節手術です。傷んで変形したひざ関節の表5

となつて いる炎症を 抑えて
痛みを 軽減させたり、ひざ軟
骨が 破壊されるのを 抑制す
る効果が 明持さ れます。一段

傷んでいた関節にかぎらず、関節の表面を取り除いて人工関節に置き換える手術で、関節の一部だけ傷んでいた場合は「部分置換術」を行います。変形が関節全体に及んでいる場合は表面全部を人工関節に置き換える「全置換術」を行います。

近年は医療技術の進歩で耐久性の高い人工関節の新素材が開発されているだけでなく、コンピューターナビゲーションを用いて正確に人工関節が設置できるようになっています。さらに、患者さんの画像情報をもとにひざの実態模型を前に作成して手術を行うことによって、いっそう手術の正確性や安全性が向上しています。入院は2～3週間ほどです。治療費用は保険が適用されますが、高額療養費制度の対象となりますので安心して手術を受けていただけると思います。

「APS療法」を受けられる患者さんの8割は女性です。治療後に痛みや腫れが出ることがあります。が、数日で治まります。日常生活はすぐに再開できますが、じつと安静にしているよりも理学療法士の

的な「P R P 療法」は2～3回の注射が必要であるのに対し、「A P S 療法」は1回で済み、痛みの抑制持続期間も長いのが特長です。治療後1～3か月後に効果を感じ始め、1年半ほど持続する人が多いです。効果には個人差があり、自由診療であるため費用は高額になりますが、患者さんの様々な事情やニーズに対応できるひとつつの選択肢としての意義は大きいと思います。

